

中学校国語B (主として「活用」に関する問題)

平成30年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力について調べる問題です。必要な情報を読み取ること、目的に応じて効果的に話すこと、根拠を明確にして自分の考えを書くことなどの問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
1.2ポイント上回っています

《平均正答率(%)》

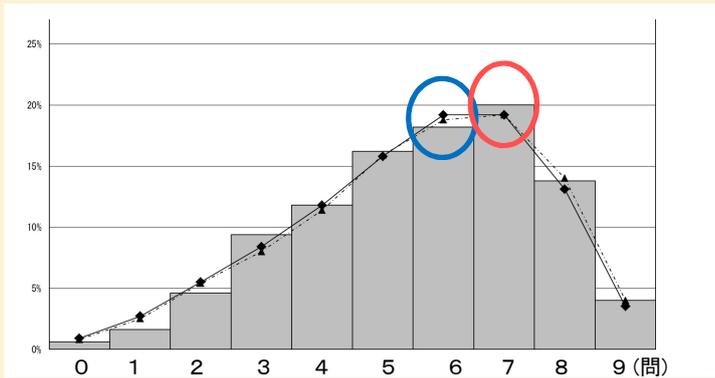
	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語B	62.4	62.0	61.2	+1.2

誤答の様子は…

分布の様子は…

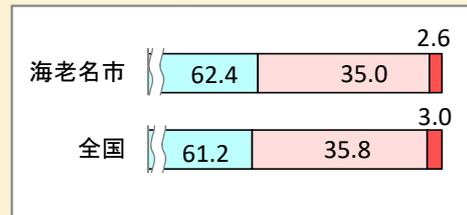
《正答数による分布》

海老名市 神奈川県 全国



《誤答の内訳(%)》

正答 誤答(書いたが不正解だった) 無解答(何も書かなかった)



無解答率(何も書かなかった)は2.6%でした。

全国と比較すると
正答数が7問の生徒が多く
6問の生徒が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~4問)の生徒の割合は28.0%でした。(全国は29.3%)

* 正答率80%以上(8~9問)の生徒の割合は17.8%でした。(全国は16.6%)

領域別の正答率

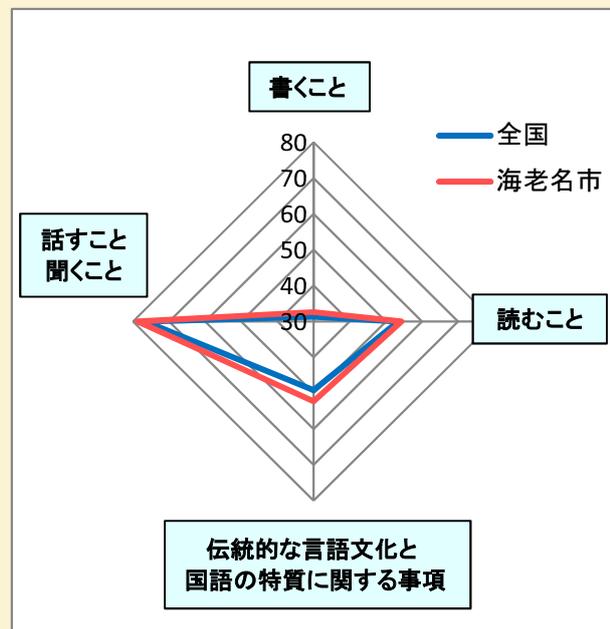
全ての領域において全国と比較して上回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	78.7	76.6	+2.1
書くこと	32.6	31.3	+1.3
読むこと	54.3	53.5	+0.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	52.3	49.2	+3.1

* どの領域も0.8ポイント以上、上回っていました。

* 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、3.1ポイント以上、上回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問	○ 発表に対する質問の意図として適切なものを選ぶ。(+3.4)
	○ 古典の現代語訳を読み、あらすじを説明するための文章を書く。(+3.1)
	○ 説明文を読み、複数の辞書を引用して言葉の意味を示す効果として適切なものを選ぶ。(+3.0)

全国を下回った設問	○ 古典の現代語訳を読み、文章中の表現について語った人物を選ぶ。(-1.0)
	○ 古典の現代語訳を読み、登場人物についての説明として適切なものを選ぶ。(-0.9)
	○ 説明文を読み、言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く。(-0.4)

国語Bで平均正答率が全国を下回った設問の例

説明文を読み、言葉を誤った意味で解釈する理由を書く設問 (全国との比較-0.4)

【説明的な文章の内容】

「天地無用」という言葉が本来と違った意味で解釈されることが多い実態とその理由について、調査の結果などを基に考察した文章。

※本文は省略

この文章を読んで、「天地無用」という言葉を見たときに誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書きなさい。
 なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。



(解答用紙)

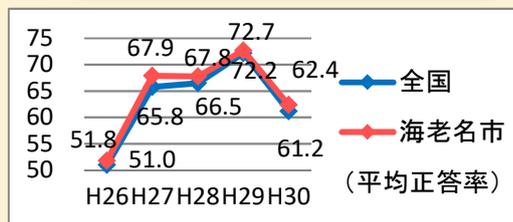
正答は省略

☆国語Bのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が7問の生徒が多く、6問の生徒が少ないことから、基礎的な知識を活用する力はおおむね身につけている。
- ◆ 「話すこと・聞くこと」の領域については、すべての設問において平均正答率が全国を上回っており、質問の意図を正しくとらえたり的確に質問をしたりすることについて成果が見られる。
- ◆ 「書くこと」「読むこと」の領域については、目的に応じて文章の内容を的確に読み取ることに課題が見られる。

これまでとの比較



- ◆ 5年間とも全国を上回っている。
- ◆ 4領域で全国を上回ったのは、平成30年度が初めてになる。

指導の改善にむけて

◆「読む力を高める」ために

- ひとつひとつの言葉に着目して考えたり、その考えをグループで交流したりして、語感を磨き、語彙が豊かになるように指導する。
- 明確な目的をもって文章を読み、理解することで、必要な情報を過不足なく捉えられるように指導する。